

2014 年度
川上村インターン報告書
2014 年 8 月 12 日～25 日

静岡大学農学部
濱野莉彩子

1. はじめに

インターン参加のきっかけ

このインターンを知った理由は川上村のHPを見たときにインターンの紹介が書かれていたからです。今ではほとんどの人が様々なインターンに参加しています。私もインターンを探している時期であり、場所が実家の近くの奈良ということもあって決めました。私がこの川上村地域づくりインターンに参加した理由は、実際に林業に関わっている人の話を聞きたかったからです。川上村は林業が盛んであり、今でも吉野杉は全国的に知られています。大学の講義だけでなく、実際に林業に携わる人がどのように林業のことを考えているのかを聞きたかったこと。また、地域の様々な行事に参加し、田舎で暮らすことの日常非日常を体験することで地域に住むということはどういうことなのかを体験したかったからです。

日程

1日目(12日)	インターン説明・挨拶
2日目(13日)	村内散策・かわかみing 作戦会議
3日目(14日)	源流館・水源地の森・北和田盆踊り
4日目(15日)	大滝ダム見学・東川盆踊り
5日目(16日)	かみせ祭り
6日目(17日)	川遊び・上谷集落・瀬戸集落
7日目(18日)	箸づくり見学・水源地の村づくり紹介
8日目(19日)	下多古村有林見学
9日目(20日)	森林伐採見学・樽丸づくり見学
10日目(21日)	保育所・診療所見学
11日目(22日)	白屋地区散策・かわかみing 作戦1日目
12日目(23日)	そうめん流し手伝い
13日目(24日)	報告書づくり
14日目(25日)	報告会

いくつか紹介

- ・大滝ダム
- ・森林
- ・盆踊り

2. 2週間で思ったこと

川上村の良い点

○豊かな自然がある

水源地の森など

歴史ある吉野林業

水がきれい

自然の物を利用した食べ物(山菜・鮎など)

○水源地の村づくり

吉野川の源流としての存在

川下の人たちとの交流

○川上村の自然の大切さや重要さを体験する施設がたくさんある

森と水の源流館

防災センター

大滝ダム

○人のつながり

困ったときのお隣さん

おすそ分け

人が集まる場所

さまざまな人の地域参加(地域協力隊・大学生)

川上村の悪い点

○林業の衰退

森林の放置

山行きさんの減少

周辺産業の衰退

○人口問題

人口減少が進む中の高齢化・少子化の進行

流出人口多いが流入人口少ない

○福祉

都会に比べて福利厚生面で劣る(人口が少ない中での事業は難しい)

○交通

車がないと不便

バスの本数が少ない

3. <川上村への提案>

観光の重要性

人口減少が進む川上村において、川上村からの人口流出の食い止めをし、川上村全体の移住・交流を通じた人口の増加を目指していく必要がある。そのために、訪れるきっかけであり気軽に知ることができる手段としての観光は重要であると考え。よって、観光による誘致を積極的に行い、地域の魅力を知ってもらい、川上村を訪れてもらえる環境をつくっていく必要がある。このことは、川上村の生活を体験したいと思ってくれている共感してくれている方との交流を進め、そこから定住してくれる人を少しずつでも増やしていくことに繋がる。

また、観光客の増加によって、川上村内の宿泊業や飲食業などに新たな需要が生まれる。観光客と川上村の人のかかわりの中で、川上村の人自身が川上村の魅力を知るきっかけになったり、再認識する場にもなる。

川上村の観光

- 1,吉野川の「水源地のむら」としてその環境の良さを体験型観光。
- 2,独自の食文化が生み出した柿の葉寿司やこんにやくをメインとする食の観光

提案1

西河地区の整備、有効利用

西河地区…車で奈良や大阪からの入り口であること

蜻蛉の滝があること

現状…トンネルを抜けてすぐの悪条件でありわかりにくい

平日やシーズンオフの利用客が少ない



トンネルの前に「トンネルを抜けると川上村」「ようこそ川上村へ」「観光案内所トンネル後すぐ右」などの看板の設置

蜻蛉の滝の紹介写真(車で 分など)

観光案内所…観光案内所としての役割を果たすとともに、夏やイベント時に需要のあるものの販売・展示

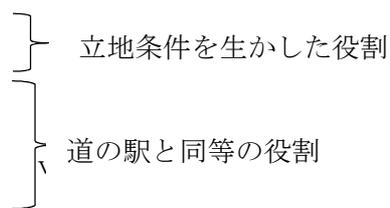
冷えたペットボトルの販売

川上村の滝の紹介

水源地の村づくりの紹介・施設紹介

川上村のさまざまな写真の展示

柿の葉寿司やこんにやくなど名産品の販売



もくもく館の再建

吉野杉をふんだんにつかった木造 2 階建ての林業資料館。

1 階部分は、吉野杉の特徴や吉野林業の歴史などがわかる資料や、山仕事で使用される道具が展示。2 階は 3D シアターでは、林業の実際の様子を映像で紹介。

火災があったが半分以上は残った。



再建して木の大切さを教える施設にする。

もくもく館が木でできた施設であったことによる利点を伝える施設にする。

学校見学の受け入れ。

地域の人たちが集える場所に

提案 2

観光サイトの改良

今はインターネットの時代であり、川上村の観光情報を集める方法の重要な手段と考える。川上村のことを知ってもらい、川上村に来てもらえるためにも観光サイトの改良を提案する。

施設を地図からご案内のページ

地図が表示されてわかりやすい。

しかし、下部に番号をクリックすると詳細ページに移動します。と書かれているが、場所により情報量が少ないところもある。

例：△花みづきと○松屋(お食事)

△匠の聚と○杉の湯(お食事・宿泊)



- ・詳細を掲載する(写真やおすすめメニュー・コメントなど)
- ・他のページに詳細が掲載されているものはリンクを表示する。
(匠の聚・ふるさと市場など)
- ・川上村の特徴をアピールできる場所であることの表示
(柿の葉ずしマーク・源流マークなど)
↑公募してもらう

提案3

東京にある奈良まほろば館の活用

…まほろば館：東京にあり、奈良県の観光情報を発信している施設

期間限定のブースを出展し、川上村や吉野林業についての紹介。

実際に見て触って感じてみようコーナー

川上村での生活についてのトークショー

吉野林業や日本の林業の勉強会企画

東京からのバスツアーの企画(日本林業ツアーなど)

4. インターンを終えて

川上村にきて、自分が大学で勉強している林業の現場というものを実際に体験することができ、大学での勉強をどのような方法で将来生かしていくことができるのかを考えることができました。吉野林業の歴史や今の状況を知り体験することで、正直大学で何を勉強しているのだろうか。大学で学んだことは林業に携わって役にたつのかと思ってしまった。山の現場には経験が必要。これをものすごく感じました。川上村のなかで進む林業従事者の減少と高齢化は川上村だけの問題ではなく、日本全国で進んでいます。日本中の若年人口の減少、山離れが進んでいく中での労働力確保は大変なことだと思います。しかし、いままで昔の人たちが築いてきた川上村の森、吉野林業という価値を後世に守り伝えていく必要があると考えるし地域の方も思っています。複雑な林業事情があり、今の私では勉強不足で具体的な提案を行うことができないと思った。様々な知識が自分に欠けていることが分かったし勉強不足を実感した。

2週間という長い時間、また8月、お盆という特殊な時期のインターンであり、川上村の様々なイベントに参加させていただき、川上村の魅力を体験することができました。3日連続の盆踊りは強く印象に残っています。昔はもっとたくさん集落ごとで長時間だったという話を聞いたり、去年に再開されたという話だったり。ただお祭りに参加するだけではわからないことも知ることができました。お世話になった協力隊の方の家にはいつも違った人が訪れ、人つながりの強さを実感しました。この2週間は自分にとって充実した2週間でした。お世話になった役場の方々やお話を聞かせていただいた方々にはここで謝礼を述べさせていただきます。今後はこのインターンでの体験を活かしていきたいです。本当にありがとうございました。